

編集後記

本書『当別町史 続編』の編さん経過は、次に記す竹田和雄委員長の文章の通りですが、竹田委員長は編さん途中の2025（令和7）年1月27日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

私、松尾友昭はその後を継いで、委員長を拝命したのですが、竹田委員長があらかじめ記しておかれた文章を掲載して、その編さんにかけた志をしのびたいと思います。

当別町では、1871（明治4）年に開拓の鋤を入れてから歳月が過ぎ、2020（令和2）年に150年を迎えることから、1972（昭和47）年に刊行された『当別町史』以降の町の発展の歴史をまとめた新たな『当別町史』を発刊することとなった。

2019（平成31）年1月24日、当時の宮司正毅町長から当別町史編さん委員会の委員委嘱について依頼を受けたが、私も、そうした責任ある委員をお受けすることが出来るか、不安な思いであった。

2019年2月22日、編さん委員の7名に対し、当別町総合保健福祉センターゆとろにおいて委嘱状の伝達が行われた。委嘱状伝達後、宮司町長から新たな『当別町史』制作を決めた経緯について説明が行われた後、引き続き第1回の編さん委員会が開催され、委員長には私、竹田和雄が、副委員長には松尾友昭氏が推薦され、決定となった。町史発刊は、2022（令和4）年度を予定しているとのことであり、我々で完成まで責任を持つことが出来るか、不安と責任の重さをあらためて痛感した次第であった。

その後、編さん委員会では、「当別町史編さん方針」において、郷土に誇りを持ち、町史をまちづくりに生かすため、『当別町史』以降の当別町の発展の歴史について広く資料を収集し、町内外における研究、発刊物等を参考に最新の成果を反映させ、編さんすること、先人の知恵、経験を伝え、郷土を愛する心を育むため、未来を展望できるメッセージ性のあるものを目指すこと等を決定した。

また「当別町史編さん計画」として、資料収集、調査、原稿執筆、編

集、校正、印刷を含めて、当別町が150年を迎える2020年から2年後となる2022年度の完成を目指して進めることとし、昭和47年以降の歴史について整理し、記述する業務であることから、業務委託の発注方法は、公募型プロポーザル方式として、企画内容や業務遂行能力が優れた事業者を選定し契約することとした。2019（令和元）年10月30日の第4回編さん委員会において、審議委員会から委託業者決定の報告があり、初めて㈱須田製版の皆さんと顔合わせを行い、その後、具体的な史料の審査などが行われたが、その中で、委員からは開拓当時の史料を加えることも大事であるとの意見が出される等、活発な協議が進められていた。

ところが、2019年の秋ごろから、中国の武漢で新型コロナウイルス感染症が蔓延しているとの報道がされ、2020年2月、外国から大勢の観光客を迎え盛大に開催されたさっぽろ雪まつり以降、道内においても、急激に新型コロナウイルス感染症の患者が増加したことから、4月7日に地域を限定して政府から出された「緊急事態宣言」に併せ、鈴木直道北海道知事は、同宣言の期間について、三密を避けるための「集中対策期間」とすることを要請され、編さん委員会が開催できなくなった。

その後も新型コロナウイルス感染症の増加や「緊急事態宣言」の発出等が繰り返され、編さん委員会としても開催延期はやむをえない状況で、1年余り審議が途絶え、予定通りに町史が完成出来る状況ではなかった。2020年11月11日、感染防止を図った上で、何とか編さん委員会を開催し、進捗状況の確認と全体スケジュール等について協議を行い、2023（令和5）年度中に町史完成を延期することとした。

この様な状況の中、2021年7月に当別町長選挙があり、後藤正洋議長が立候補され、選挙の結果、初当選された。2021年12月21日の第8回編さん委員会に出席された後藤新町長から、ご挨拶とご指導をいただき、コロナ禍の極めて厳しい状況にあっても、町史の完成にむけて、困難を乗り越えなければならないと、あらためて思った次第であった。

この新しい『当別町史』の制作には、時間がかかることは言うまでもなく、執筆される諸先生のご苦勞は、計り知れないものがある。2022年6月7日に開催された第10回編さん委員会では、コロナ禍で遅れていた執筆作業について、進捗状況の説明を受け、ようやく原稿の校正に入ることになったが、大量の原稿の整理等を考えると、かなりの時間がかかることが予想された。

2023年1月27日、第15回編さん委員会を開催したが、原稿の校正等が遅れている現状を踏まえ、完成時期を更に延期することになった。

この様な経過ではありますが、3年以上に及ぶコロナ禍などの影響により、町史の完成時期が大幅に遅れることを、心よりお詫びいたします。また、当別町として150年記念事業が全て中止となり、町史に残すことができないことは、私として非常に残念であります。

終わりに、各関係機関などから史料のご提供やご助言をいただき、ありがとうございました。

これまで、町長をはじめ担当部課長様、そして監修者、執筆者、(株)須田製版の皆様に、殊のほかご協力をいただき、御礼申し上げます。

また、40回を超える編さん委員会にご出席、ご協議いただきました委員の皆様のご苦勞に感謝申し上げまして、意を尽くせませんが、この新たな『当別町史』の編集後記といたします。

当別町史編さん委員会 委員長 竹田和雄

最後になりましたが、長きにわたる編さんにご協力をいただいた監修者、執筆者、写真・情報提供者、編さん事務局など、関係者の皆様に感謝申し上げます。

2026（令和8）年3月

当別町史編さん委員会 委員長 松尾友昭



編さん委員

委員長	竹田 和雄	元町議会議長
副委員長	松尾 友昭	元選挙管理委員長
委員	白井 応隆	元教育委員長
委員	野口 和之	NPO法人ふれ・スポ・とうべつ理事長
委員	大口 弘美	歴史ボランティアの会代表
委員	曾川 昭治	文化協会会長
委員	大畑 裕貴	当別町教育部長

※肩書は発足当時

編集・制作等分担

■監修

桑原 真人（札幌大学元学長・北海道現代史編集長）

■執筆（順不同、肩書は執筆時）

平野 友彦（旭川工業高等専門学校名誉教授・北海道現代史専門委員）

鈴木 明彦（北海道教育大学札幌校教授）

越田 賢一郎（札幌国際大学縄文世界遺産研究室長）

大藤 寛之（郷土史研究家・北海道現代史調査研究協力委員）

金澤 恵理（札幌大学歴史文化財展示室）

大沼 弘樹（北海道医療大学薬用植物園・環境カウンセラー）

河井 大輔（NPO法人奥入瀬自然観光資源研究会理事長）

濱口 裕介（札幌大学女子短期大学部助教）

井上 美香（郷土史研究家）

井上 由美（郷土史研究家）

金子 美里（郷土史研究家）

山下 恭平（郷土史研究家）

■編集

株式会社リテラクルーズ

■編集協力

当別町歴史研究専門員 倉田 守

当別町史編さん事務局（当別町総務部総務課）

当別町史 続編

発行日	令和8年3月31日
発行	当別町役場
	〒061-0292 北海道石狩郡当別町白樺町58番地9
	TEL 0133-23-2330
監修	桑原 真人
編さん委員長	松尾 友昭
装幀	須田 照生
印刷・製本	株式会社須田製版